



濁川中だより

〒950-3134

新潟市北区新崎 5437 番地

Tel 025-259-2150

学校の様子をHPで更新しています。

<https://blog.city-niigata.ed.jp/nigorikawa/>

じ こ ち ょう せい

自分で決める（自己調整）

濁川中学校には、夏休みの宿題がありません。夏休み前に、先生方とチャレンジミーティングを行いながら、夏休みをどのように過ごすか、何に挑戦するのかを決定し、取り組みました。では、なぜ、全員が提示された同じ課題でなく、個別に取り組む内容を決定するのでしょうか。それぞれ、得意とすること、不得意・嫌いなことは異なります。長期休みの間に、一人ひとりにあった学習で成長することを期待しているからです。

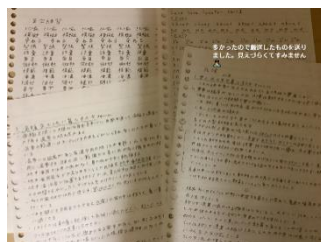
夏休みの My Challenge の表には、「私の強み」「私の弱み」を書きます。自分の強み・弱みを知る（自己理解する）ことで、自分に必要な学びが見えてきます。自分の強み・弱みは学習の分野（歴史、地理、漢字、計算…）だけでなく、取り組み方もあります（根気強くできる、集中力はなかなか持続しない…など）。それらを踏まえて、弱みを克服できるようにどう工夫するか、強みをより強化するためにどんなことに挑戦するかなどを考えて、取り組む。そして、中間の振り返りで軌道修正しながら進める。このように学習していくことが、生徒の成長に大きく反映されるのです。このように、目指す姿に向かって、自分で試行錯誤しながら進めていく過程を「自己調整」と言います。自分のことを知り、自分で決めて、自分を律しながら取り組むのです。

自分の欲望のまま甘やかすか、頑張れば乗り越えられる壁を設定するか、本人次第なのですが、中学生にはなかなか難しいことです。ですから、学校と家庭で連携しながら、生徒の支援ができるとよいと考えています。

夏休みの取組

自分の強み・弱みを踏まえて、夏休みの学習を工夫している生徒の取組を紹介します。

- 数学の公式をカードにまとめる。
- 中学校3年間で学ぶ英単語を単語カードにする。
- 定期テストを解きなおして復習する。
- ドリルパークでこれまでのところをすべて合格。
- 裁縫で作品づくり



● 新潟市中学校英語発表会にてスピーチ発表

どのようにすると自身の主張が伝わりやすいか、話す内容、話し方などを英語科の先生、ALT の先生の助言を踏まえて練習を重ねました。

A Vision for My Future

My dream is to be a police officer. What is your image of police officers? Strict? Scary? However, for me, police officers are cool and a profession I admire. Also, many people might think that being a police officer is a job for men, but in reality, there are many female police officers. I dream of becoming a police officer who can succeed regardless of gender.

There are two reasons.

The first is Conan. Conan solves the mystery of incidents, and finally catches the culprit. One of the characters I respect the most is Morohashi Takaaki. He is a police officer. He has a sharp mind for solving cases and risks his life to protect others. I was inspired by him.

Second, I've actually met a police officer. Last summer, when I went to the Gozareya Fireworks Festival, I accidentally jaywalked. At that time, a police officer blew his whistle, approached me, and told me, "Stop, that's jaywalking. Do you understand?" I was scared for a moment, but immediately realized my mistake. I was filled with gratitude for the police officer who protect me from a dangerous situation and made me think that I wouldn't make the same mistake again. I had only seen police officers in dramas before, but I was impressed by how they worked diligently and for the benefit of everyone.

I have to make a lot of effort to be a police officer.

There are many things I still lack, such as physical strength and logical thinking. So I need to study and exercise every day. I'll study and train hard at the police academy. I believe that we need a strong sense of justice, the responsibility to protect lives, and the courage to face any danger. With all these in my heart, I'll do my best.

When my dream of becoming a police officer comes true, I want to continue my daily efforts so that I can become the kind of person others look up to, just like I look up to police officers now.

【要約】

私の夢は警察官になることです。「名探偵コナン」を見て、鋭い観察力と思考で事件を解決したり、誰かを守るために命をかけたりする姿に憧れをもちました。そしてもう一つ、ある警察官の方との出会いが、私の夢の原点です。

昨年のござれや花火で、私はうっかり信号無視をしてしまいました。その時、警察官の方から厳しく注意されました。はじめは怖かったのですが、私を危険から守ってくれたことに対して、感謝の気持ちを抱くようになりました。ドラマなどでしか見たことがなかった警察官でしたが、市民の安全を守るという使命を果たす姿に、私は感銘を受けました。

警察官になるために、私は体と心を鍛え、将来は警察学校に進もうと思っています。強い正義感や生命を守る責任、危険な状況に立ち向かう勇気を胸に、最善を尽くします！

今私が警察官にあこがれているのと同じように、人に尊敬される人になれるよう、私は日々の努力を続けていきたいです。

● 新潟市広島平和記念式典等派遣事業に参加

全校朝会で発表をした後、「全校のみんなの平和についての考えを知りたい」とのことで全校に向けてアンケートを行いました。平和とは、「平和について考えなくてよい状態」「みんなが自由に生きることができる」「争いが無い」…など、話を聞いて生徒のみなさんも平和について考える機会となりました。



先日、平和記念式典から帰って来る道中、私は今回の派遣事業に応募してよかったと改めて感じていました。2泊3日の短い時間の中で非常に多くのことを得ることができました。

中でも被爆者からのお話と平和記念資料館の見学では、原爆や平和について改めて考えさせられることばかりでした。これまでの学校の授業で戦争について学び、そこで原爆の恐ろしさや平和の大切さを自分の中で考え、理解しているつもりでいました。

しかし、今回の広島で見て、広島に原爆が落とされ、強烈な熱線により人々は大火傷を負い、物は溶け、超高圧の爆風により建物は瓦礫の山となり、割れたガラス片が体中に刺さり、放射線により後の世代まで続く恐怖を与えられた。広島の地で様々なものを目にし、被爆された方から話を聞くと、それらの言葉はただの文字ではなく、私の心に深く刺さるものとなりました。被爆者の方は、その後の人生を「爆弾を抱えて生きていくようなもの」とおっしゃっていました。その表現に、たった一つの爆弾が何万人もの人々に散り散りになってとりつくような、まるで漫画の世界のような不思議な感覚を覚えました。しかし、被爆者の方々からは原爆投下の前後の生活の変化などのとても詳しい話を聞き、平和記念資料館では当時の様々な実物を見て、これが現実の話だということを実感しました。

また、原爆のこと以外にも、当時の広島の様子についても深く学ぶことができました。原爆が投下される前の広島は軍都広島と呼ばれ、兵器や軍服、兵隊の食糧を作る工場があったといえます。今でこそ広島は被爆した町、平和の町と言われていますが、当時は軍隊を支え続けた町でもありました。日本は原爆をはじめ、戦争の被害を受けた国でありながら、反対に戦争を仕掛けていた国でもあります。両方の側面を持つ日本だからこそ、そこから平和の道を選び歩いて行くことに大きな意味があります。しかし、「平和の実現」というものは非常に難しく、まず平和とは何なのか、ハッキリと説明できない自分がいることに気づきました。

今回参加したワークショップで平和について考える機会を得たものの、いまだに平和とは何なのか、自分の中で答えを見いだせずにいます。ただ、平和の形とは人によって違い、正解があるものではないと考えました。核兵器がない世界、戦争がない世界を「平和」としたならば、核被爆国である日本が世界で先頭に立ち、原爆の恐ろしさを世界に訴えるべきだと思いますが、目指すべきところは非常に遠い、とも感じてしまっています。その中で私たち一人一人ができることは限られていますが、今回の経験を通して、それぞれができることをする、行動を変えることで、世界を変えることができるのだと思うことができました。

被爆から80年の節目の年というのは、日本人にとって平和にむけて行動を変えるひとつのきっかけになると思います。私もその中の一人として、今回の派遣事業を通して体験したこと、感じたことを身近な人に伝えながら、平和についてこれからも考えていきます。それが平和に向かう、遠いけれども一番の近道だと思います。



夏休み Challenge の振り返りより

- ・人生初10時間以上勉強しました。毎日5時間以上勉強する習慣ができました。
- ・粘り強く、たくさんすればするほど自分のためになる。
- ・たまに休憩を入れたら、集中できました。「毎日何かをする」ということを意識しました。「今日はいつもより頑張ったから、休憩を多めにしよう」などしていると、とても楽しかったです。
- ・(ワークなど) 前やった時よりも、分かることが増えて、成長を感じました。

いじめ見逃しゼロ集会



いじめ見逃しゼロを目指して、生徒会を中心に夏休み中から計画し準備を進めました。

9月8日(月)には生徒会本部の生徒がメインティーチャーとなって道徳の授業を行い、授業で考えたことをもとに、19日(金)に濁川小学校の6年生を中学校に迎えていじめについて考えました。

「相手の気持ちになって考えて、何をすべきか考え、行動することができる」を目指して、それぞれの行動のプラス面、マイナス面について考えました。

—残念ながら、いじめは起きてしまう— その時に、どう行動できるか…いじめを見逃さない行動ができる濁中生であることを期待します。

PTAの活動より

① 9月11日(木) 教育講演会(講師：新潟医療福祉大学 佐藤 未希 様)

ご自身が義足で生活をされており、義肢装具士としてもご活躍している佐藤様からお話をお伺いしました。佐藤様のいろいろなことに挑戦し、活力のある生き方をされている姿、義肢装具士としての専門的なお話は、生徒にとって自身の生き方や考え方をとらえ直すとても貴重な時間となりました。



【生徒の感想より】

- ・ 私は今日の講演を聞いて障害のある方への見方が変わりました。言い方が悪いですが、障害のある方はできることよりできないことの方が多いのかなと勝手に思い込んでいました。でも、佐藤さんのお話を聞いて障害があってもできることはたくさんある、普通の人と変わらないという考え方になりました。義足のおかげで生活がしやすくなっているので、本当に義足は佐藤さんのパートナーなんだなと思いました。
- ・ 世の中には義肢装具士という仕事があることを知ったし、義肢装具士さんでも義肢を作るだけでなく、病院などでリハビリなども行なっていることを学びました。他にも同じ装具でも怪我などの治るものには医療用装具、麻痺などの治らないものには更生用装具を使うということも学びました。義肢装具士ってあまり知られていないけれど誰かの役に立っていて素敵なお仕事なのだと学びました。
- ・ 足を切断しただけなのに「私は障害者なんだな」って思うことがなくなる社会にしないといけないなと思った。

② 9月20日(土) 側溝清掃

生徒、保護者、教職員合計40名で、行いました。生徒の中には、事前の申し込みはなかったものの、急遽参加したいと申し出る生徒もいました。自分の時間をちょっとWell-beingのために使う…素敵な姿でした。大変力が必要な作業でしたが、終わりには側溝も心もスッキリとした1時間でした。

